

- 服飾博物館の新たな取り組み…………… 1
- 2012年度の展示報告…………… 2
- 服飾博物館トピックス…………… 3
 - 韓国 国立古宮博物館にて展示開催
 - エコへの取り組み etc…
- 2013年度展示のご案内…………… 4

日本の染織産業は今、、服飾博物館の新たな取り組み

経済のグローバル化や産業構造の変化は、製造現場の海外移転といった日本の製造業の衰退を招き、「ものづくり」文化の継承が危ぶまれています。染織においても例外ではなく、日本の伝統的な染織技術の中には、後継者不足、材料や道具、部品の欠如など、危機に瀕しているものもあります。服飾博物館では、このような現状をふまえ、衣服製作の基本となる染織技術を支えていくための取り組みとして、新たな一歩を踏み出しつつあります。

現状を知るために

日本各地には、古くから染織産業がさかんな地域がいくつもあります。その地域に赴き、製作の現場を見学し、問題点を聞き取ることで、現状の把握に努めています。それぞれ、着物の需要が減った現代において、ライフスタイルにあった新たな展開を行うなど、試行錯誤や努力を重ねながら技術を持っています。このような現状をふまえ、服飾博物館として今後どのような取り組みをしていくべきかを模索しています。

＊ 昨年は静岡県西部地方の染織工場取材しました。



磐田市福田(ふくで)地区のコーデュロイの剪毛工場。この地区の全国シェアは9割以上。剪毛に使うカッターやニードルの調整は、長年の経験や勘がすべて。新製品の開発にも意欲的に取り組む。



浜松市の注染(ちゅうせん)の工場。浜松の浴衣の取扱量は全国一。浴衣や手拭い以外の広幅布も手がけるが、ヤカンやへらなど道具類の作り手は減っている。

伝統染織を伝えるために

日本のすばらしい染織を伝えるためには、出来上がった染織品ばかりに目を向けるのではなく、それらが作られる過程を知っていただくことも重要です。その試みとして、昨年は染織産業に携わる若手職人の方々をお呼びし、技術を体験するワークショップ「体験してみよう!」を開催しました。実際に経験したり、職人さんから話を聞くことで、理解が深まると同時に、染織品が身近に感じられます。普段、あまり接する機会のない職人さんたちとのコミュニケーションをはかることは、参加者と技術者の双方にとって良い経験となったことでしょう。今後も、<作る側>とく<使う側>の橋渡しができれば、と考えています。

＊ 昨年11月2～4日に行われた「体験してみよう!」の様子。



絞り染…若手職人さんの指導は、気軽に質問ができると好評でした。



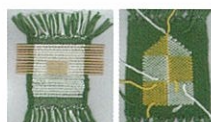
友禅染…初めて持つ糊筒に神経を集中させる参加者。



絹糸作り…繭を煮た独特の匂いに多くの人が集まりました。

今後の活動と展開

染織技術の記録や道具類の保存を行い、展示の中でも積極的に生かしていきたいと考えています。特に、動画やサンプルを使った理解しやすい技術の紹介などに努めています。文化学園内には、染織技術やデザイン、繊維の特性を学ぶコースと研究室や資料室があり、また、最近ではアパレル・テキスタイル・メーカーの優れた製作技術を工場の機器ごと受け継いだ文化・ファッションテキスタイル研究所も新設され、学園全体で染織技術の維持や継承に取り組んでいます。さらに、近年の急激な社会の変化によって失われつつある染織技術や民族衣装は日本ばかりではありません。海外の施設などとも連携し、伝統染織を守り、広く伝えていくことも私たちの使命であると考えています。



触れて理解する織物サンプル



急激な発展の渦中にあるミャンマーの織物工場。(2011年)



50年以上前の日本製の織機を使うシリアの織物工場。(2007年)



「織りの服、染めの服」展では、シリアの優れた染織品を特集。

ヨーロッパ・モード
4月12日～6月2日

春の恒例の企画としてヨーロッパのモードの歴史をたどる展覧会を開催しました。展示では、宮廷の優雅な装いが流行した18世紀のロココ時代から、若者によって多様なスタイルが打ち出された1970年代まで、約200年間のヨーロッパの女性モードに焦点を当て紹介しました。また特集として、18世紀半ばから20世紀末までのプリントのドレスを取り上げました。現代の衣服に文様を表す主流となっているプリントは織りに比べて簡単に文様を表すことができ、さまざまな表現が可能です。時代を追ってプリント技術の向上や美意識の変化を垣間見ることができたのではないのでしょうか。



アフリカの染織
7月6日～9月21日

豊かな大地に多くの民族が生活を営むアフリカ大陸。本展では、アフリカ25か国、約100点の染織品をそれぞれの地域に分けて紹介しました。アフリカの染織は独自の美意識と創造性が大きな特徴です。特有の植生を生かした素材と染料、簡素な道具を用いる独自の織物、精神世界などが影響した文様からは、確かな染織技術と豊かな表現が感じられます。展示では特徴的な染織技術を解説するとともに、特有の衣服素材に実際に触れるコーナーも設けました。力強さに満ちた展示品からは、日本の染織品とは一味違う新鮮な「美」を感じるとともに、アフリカを一層身近に感じる事ができたでしょう。



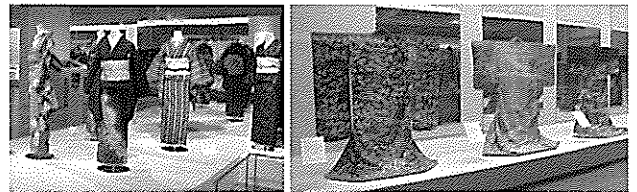
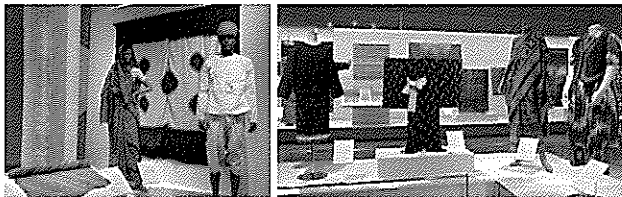
織りの服、染めの服
10月17日～12月22日

普段、私達が選び、身につけている衣服には、さまざまな質感や色、柄の布があります。それらは織り糸の種類や織り方、また布地を染める様々な技法によって作られています。本展では、日本の着物や世界各地の民族衣装約130点を、触れることができるサンプルを交えて技法別に紹介しました。また、グローバル化や社会の変化などによって継承が危ぶまれるシリアの優れた染織品を特集しました。11月2～4日の3日間、絞り染、絹糸作り、友禅染を体験するワークショップを開催し、好評でした。



きものの文様
'13年1月25日～3月14日

日本のきものには、多種多様な文様が表され、表現の方法も具象や抽象などさまざまです。本展では、季節感あふれる植物文様、成長や幸せへの願いを込めた吉祥文様、古典文学に題材をとった文様など、さまざまな文様の着物を紹介しました。それぞれの着物の文様からは、身近な草花に向ける暖かい眼差し、季節の移ろいを楽しみ調和しようとする暮らしぶり、また人生に対する願望や我が子への深い愛情など、細やかな心情が伝わってきました。文様の持つ深い意味を再認識しつつ、日本人の持つ優れた感性や伝統を改めて感じる良い機会となりました。



館外の展示への協力 * () 内は、協力の内容

- 「昭憲皇太后と赤十字」展 … (ドレスの着装展示協力)
3月26日～5月28日
主催＝日本赤十字社 赤十字国際委員会 国際赤十字・赤新月社連盟 会場＝明治神宮文化館
- 「新収蔵品展」 … (ドレスの着装展示協力)
6月26日～9月2日 主催・会場＝昭和天皇記念館
- 「岩崎彌之助のまなざしー古典籍と明治の美術ー」展 … (大礼服の着装展示協力)
9月22日～11月25日 主催・会場＝静嘉堂文庫美術館
- 「ふたつの銀座復興 文明開化とモダン文化」展 … (所蔵資料3点の貸出)
10月13日～11月25日 主催・会場＝中央区立郷土文庫

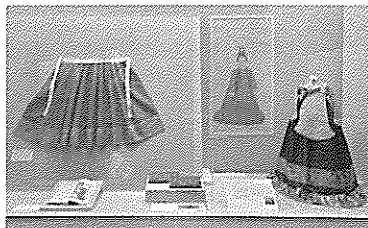


「ふたつの銀座復興 文明開化とモダン文化」展示風景

韓国 国立古宮博物館で「徳恵翁主」展を開催

韓国・ソウル市の国立古宮博物館において、当館の所蔵する徳恵翁主が着用された宮廷衣裳類を中心とした展覧会「徳恵翁主 Last Princess Deokhye」（会期：2012年12月11日～2013年1月27日）を国立古宮博物館と共催しました。

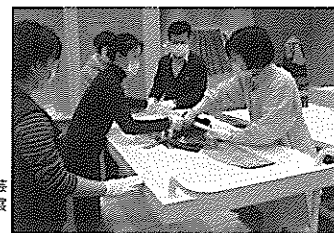
徳恵翁主（トッケオンジュ）は朝鮮王朝最後の皇帝である純宗帝の妹にあたり、その生涯の多くを日本で過ごしました。文化学園服飾博物館には、徳恵翁主の着用された龍の紋章のついた宮廷礼服をはじめ、化粧鏡台にいたるまで53件の資料が残されています。韓国でも類例のほとんど無い、これら貴重な衣裳類の韓国での公開は、30年の長きにわたり韓国の研究者から望まれていましたが、徳恵翁主の生誕100周年の節目となる本年に、さまざまな困難を乗り越えようやく実現できました。展覧会には連日多くの人を訪れました。



関係者を招き、盛大に行われた開会式



ソウル中心部、景福宮にある国立古宮博物館



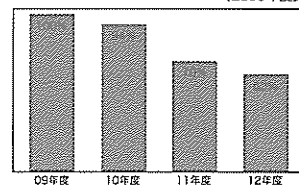
日韓双方の学芸員が協力し、展示準備を行う。



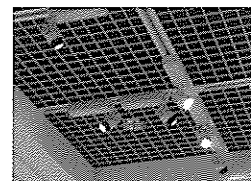
エコへの取り組み

服飾博物館では省エネの取り組みを積極的に進めてきました。2011年7月には、地球温暖化防止のための環境省が推奨する「チャレンジ25」に賛同し、『暑さと衣服』と題して、民族衣装や日本の着物に見る暑さ対策を展覧会の形で紹介しました。節電において具体的には、展示室のスポットライトのLEDへの切り替えを3年計画のところを2年で完了しました。また、収蔵資料の保全には欠かせない空調のシステムの見直し、一部改修工事を行うなど積極的な改善を行いました。結果、電気使用量については2009年度と比較し、3年間で38%減を達成しています。展示室内で、夏季には「冷房を効かせ過ぎる」、冬季には「暖か過ぎる」など節電に逆行しているのでは、とのご意見をいただきますが、これらは当館の現在の空調システムにおいて湿度を一定に保ちつつ、節電を行っている結果の現象です。ご不快な面もありますが、引き続き快適さと節電の両面を考え、改善に努力してまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

過去3年間の服飾博物館における電気使用量の推移（2009年度比）



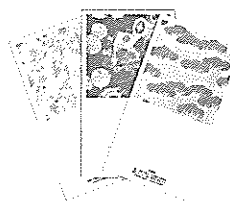
季節の変わり目ごとに室温の設定を細かく調整する。



演色性の高い美術館・博物館用のLEDのスポットライト。明るさ、配光の調整もできる。

ミュージアム・グッズの製作

博物館への来館記念として、何か手頃で実用的なものを買いたい、という声が聞かれます。当館ではこのようなご要望にお答えするため、服飾博物館らしい、特徴あるミュージアムグッズの企画、製作に取り組んでいます。博物館の美しい所蔵品を生かし、定番である絵はがきの他、今後それぞれの展覧会に合うグッズを製作したいと思います。



「きものの文様」一筆箋パンフレット



「インドの染め織りバザール」

リピーター特典制度を試行します

染織や服飾を見るのが大好き！ 服作りや刺繍が大好き！ そんな方にとって、服飾博物館で開催される興味のある展覧会は何度でも足を運びたいものです。もっとじっくりとご覧になりたい方のために、今年度、割引特典を試行します。同一の展覧会を会期中に再び鑑賞される予定のある方は、受付にお申し出ください。半券に印をつけます。その半券を同会期中にお持ちいただきますと、入館料を200円引きとさせていただきます。

*招待券、団体割引でのご入館は除外となります。ご了承下さい。

4月12日～6月8日

*4/26、5/31 は19:00まで開館

ヨーロッパ・モード 2013

ヨーロッパのドレスは、それぞれの時代でスカートの形や丈、袖の大きさなどに流行が見られます。本展では、18世紀の華やかなロココ時代のドレスから、ミニスカートやパンツ・ルックなど、多様なスタイルが打ち出された1970年代まで、約200年間のヨーロッパの女性モードと、その流行が生み出された社会背景に焦点を当てます。また特集として、私たちが一度は耳にしたことのあるヨーロッパの貴族やハリウッド女優など、著名な人物にまつわるドレスや染織品を紹介します。

パンツ・スーツ
サンローラン
フランス
1969年

イヴニング・ドレス*
1988年
ダイアナ元皇太子妃着用

ロブ・ア・ラ・フランセーズ
イギリス 1760-70年頃

映画「ローマの休日」で
オードリー・ヘップバーン
使用のドレス* 1953年

*は寄託資料

7月3日～9月28日

*夏期休館=8/11～18 *7/28、8/4は開館
*7/19、9/27 は19:00まで開館

『装苑』発刊 77周年記念 『装苑』と『装苑賞』その歩み

1936年に創刊した『装苑』は、日本における最も長い歴史を持つファッション誌として現在も支持されています。その歩みは日本の洋装教育をリードしてきた文化学園と共にあり、最新のファッション情報をいち早く伝える役目を果たしてきました。また、1956年に創設されたファッションコンテスト「装苑賞」では、若手クリエイターを発掘し世界へと送り出してきました。本展では、『装苑』の果たした役割やその歩み、さらに装苑賞受賞作品を紹介し、日本ファッションの動向を振り返ります。



『装苑』創刊号
1936年



第7回装苑賞受賞作品
小篠順子 1960年



第25回装苑賞受賞作品
山本耀司 1969年



第8回装苑賞受賞作品
高田賢三 1961年

10月23日～12月21日

*11/3、4は開館
*11/15、12/13 は19:00まで開館

文化学園創立 90周年記念特別展 明治・大正・昭和戦前期の宮廷服 —装束と洋装—

明治時代から昭和戦前期には、天皇を中心とする体制のもとで独自の宮廷服が着用されました。明治政府は、近代国家建設のためにヨーロッパの制度や文物を積極的に導入し、この一環として、洋服を宮廷服とすることが決定されました。また一方では、伝統的な装束が着用される場合もありました。宮廷の儀式や行事のそれぞれに応じ、天皇・皇后・皇族・華族・文官・武官などの身分によって着用すべき服飾が詳細に定められ、これら宮廷服には近代日本の一側面が示されていると言えるでしょう。本展では、大礼服と呼ぶ男女の洋服、束帯や十二単、袴などを中心に80点余りを出品します。



御大礼服 明治20年代後半 明治天皇の皇后着用



束帯
昭和3年 賀陽宮恒憲王着用



五衣・唐衣・裳 (十二単)
昭和3年 賀陽宮敬子妃着用



非役有位者大礼服
明治20、30年代
渋谷栄一着用

'14年2月7日～5月24日

ヨーロッパ・モード 2014

* 上記の予定は都合により変更されることがあります。

利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30 (各展示会期中2回、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆ 入館料 一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円
*()内は20名以上の団体料金、障害者とその付添者1名は無料
- ◆ 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木 3-22-7

TEL. 03-3299-2387

<http://www.bunka.ac.jp>

学校法人 文化学園

文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/
文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館